

現場へ!

「地元産100%」次々 都市にも

地域と再生可能エネルギー④

趣深い天守閣や石垣が闇の中に浮かび上がる。丹波を平定した明智光秀が築き、一度は取り壊されたものの再現された福知山城だ。ライトアップする電気は、昨年10月から再生可能エネルギー100%になっている。天守閣のある

城としては全国で初めて。城がある京都府福知山市のエネルギー・環境戦略課主査、岩木保憲さん(36)は「福知山城は市の象徴。地元再エネに照らされていることに誇りを感じる」と言う。

「たんたんエナジー」が供給する。気候変動対策や地域活性化に取り組む人らが出資し、2018年12月10日につくった。その21年前に開かれた地球温暖化防止京都会議(COP3)の最終日にあたる日

だ。この時の市民活動の流れをくむ環境NGO「気候ネットワーク」のメンバーも役員に名を連ねる。

市は出資こそしていないものの、地元の大学や金融機関などと協力して設立に関わり、地域での再エネを進めるための協定を結んでいる。すでに福知山城を始め、本庁舎や小中学校などの公共施設を再エネ100%に切り替えた。

家庭への電力供給も始めている。たんたんエナジー専務の根岸哲生さん(39)は「自治体と連携してエネルギーを軸とする魅力的な地域づくりを目指している。売り上げの一部を市民活動に寄付するなどして地域に還元していく。営利の追求以上に社会課題の解決を目指す社会的企業」と説明する。



ライトアップされた福知山城。再生可能エネルギー100%の電気が使われている＝京都府福知山市提供



卒F-I-Tの電気をたんたんエナジーに供給している由良春夫さん(右)と妻の恵子さん。自宅屋根(後方)の太陽光パネルで発電している＝京都府福知山市、たんたんエナジー提供



横浜市と連携協定を結ぶ青森県横浜町にある風力発電所。この風でつくられた電気が700キロ離れた首都圏で使われている



「ところざわ未来電力」の電源の一つになっている調整池に浮かべられた太陽光パネル＝埼玉県所沢市

「再エネ100%宣言 RE Action」に入った。宣言団体は今月2000団体に達した。自治体は神奈川県やさいたま市など8団体に。ただ、ほかにも福島県が40年に目指すなど、再エネ100%を掲げる自治体は増えている。

市は6月、再エネ100%を宣言した企業や自治体などによる「再エネ100%宣言 RE Action」に入った。宣言団体は今月2000団体に達した。自治体は神奈川県やさいたま市など8団体に。ただ、ほかにも福島県が40年に目指すなど、再エネ100%を掲げる自治体は増えている。

千葉大学の倉阪秀史教授らの調査では、19年度に地域で使う以上の電気を再エネで生み出している。「再エネ電力自給率100%超」の自治体は全国で226に上る。自然資源に乏しい都市部も、再生可能エネルギー100%に向けて動く。埼玉県所沢市は18年、市が51%を出資する自治体新電力「ところざわ未来電力」をつくった。清掃工場の廃棄物発電や調整池にパネルを浮かべた太陽光発電などを電源にしており、供給する電力の再エネ率は6割に上る。